

「新しい東北」官民連携推進協議会
令和6年度 宮城県意見交換会（第2回）議事概要

令和6年10月8日
「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日 時】令和6年10月8日（火）13:00～15:00

【場 所】宮城復興局仙台支所／オンライン（Teams）

【出席者】（敬称略）

　<副代表団体>（順不同）

　宮城県／株式会社七十七銀行／国立大学法人東北大学／一般社団法人みやぎ連携復興センター

　<意見交換会参加団体>

　仙台港周辺賑わい創出コンソーシアム 仙台水族館開発株式会社

　<復興庁>

　復興庁 復興知見班／復興庁 宮城復興局

　<事務局>

　株式会社読売エージェンシー／株式会社 JTB

【議事概要】

1 開会

　復興庁佐藤参事官より復興に関わる仕事の経歴紹介と挨拶がなされた。

2 各団体の令和6年度上半期活動紹介

　復興庁（資料2-1～2-5）、七十七銀行、宮城県、東北大学、みやぎ連携復興センター、仙台港周辺賑わい創出コンソーシアムより、上半期の活動を紹介した。

3 実践の場、および招待状作成ワークショップ進捗に関するご報告

　<本年度企画に関する意見交換>

　事務局より、大阪・関西万博を見据えたインバウンド観光を促進させるための観光資源の検証、および招待状ワークショップの企画について、第1回意見交換会からの調整内容を説明し、内容に対する意見交換と、今後の意見交換会の議事について意見交換が行われた。

　<主な意見>

- ・招待状作成ワークショップは、昨年度は松島高等学校の観光科の学生が参加して実施した。今年度は多賀城高等学校災害科学科の学生に参加いただくということで、多賀城高等学校災害科学科の学生が学んできた防災分野の知見を活かすなどの特色が出せると良いと考える。
- ・視察するコンテンツの選定において、インバウンドが興味を示す場所に偏らず、震災や復興のストーリーも感じ取れる場所も組み込むことが大事で、その意義や重要性を学生参加者に理解してもらう必要がある。
- ・実践の場では、チャーター車両の移動で現地視察を実施するが、個人の観光客は公共交通機関やタクシーなどを利用することが多いので、公共交通機関の利用を想定した場合の選定・視察も考慮すべき。
- ・学生に参加してもらうにあたり、学生達に何を求めるかというコンセプトが必要だと考える。学生には発想のフレッシュさを求める狙いと考えるが、事前説明が足りないと本来の狙いから外れる懸念があり、逆にあまりインпутしすぎると学生らしい意見の特徴が出しづらくなるため工夫が必要である。
- ・コンセプトを明確に持って、震災からの復興を感じ取れるスポットを視察先に設定する必要がある。

- ・副代表団体からも視察先として推薦地を上げてもらうのが良い。
- ・事前ワークショップに登壇いただくゲストスピーカーには、いかに復興した街を魅力的に伝えるかをお話いただきたい。
- ・観光コンテンツの場所や施設は調べれば出てくるが、復興庁の地域づくりハンズオン支援の連携先なども設定してみてはどうか。
- ・モニターとなる外国人については、仙台観光国際協会以外にも宮城県国際化協会にも相談して幅広い人材に参加を促すとよいと思う。
- ・留学生などの、日本の滞在歴が浅い方に参加いただけだと良い。
- ・参加いただく方の国籍も多い方が良く、アジア圏でも中国・タイ・韓国の方が居るので偏らずに参加いただくのが好ましい。
- ・今回の取組については、副代表団体の課題に沿った内容でインバウンド誘致を課題とした取組としている。来年度に向け、現在の課題や意見をもとに議論を行う必要がある。
- ・重要な課題として、震災の伝承、沿岸地域の交流人口増加といった点が欠かせないと考える。これらに向けて効果的に取り組むための議論を深めなくてならない。
- ・震災伝承は大変難しく、様々な取組や施設が出来てはいる。震災は悲しい出来事で、復興を遂げてはいるものの未だ完全ではない。個人的な感想として、そういう震災の悲しい記憶と、復興の喜びが相まみれていること、この両方を感じ取れる取組が一番効果的で、この両方を感じ取れる体験が、再訪の機会になるのだと思っている。
- ・これまでにどのような復興の取組が行われてきたかを伝えるのも伝承の一つになると考える。まちづくりの過程でも、どういった方々が、どういった思いでどのように携わってきたのかを知っていただく機会にし、学びのポイントや知見を伝えることも有意義ではないかと考える。
- ・震災後10年以上にわたり民間の復興支援団体をサポートしてきた。創生期間の終了にあたっては、これまでの基盤を活かし、各団体が自立して継続するための仕組み作りが必要であると考える。地域社会において活動を展開してきたことは大きな基盤となっており、今後も地域・企業・市民活動団体との連携を強化し、これからも被災地での支援活動を続けるための基盤強化が必要。このまま何もしなければ、団体の解散や活動の分散が懸念され、それが課題だと考える。

4 閉会

第2回意見交換会では震災からの復興を背景に、インバウンド誘客を目的とした観光コンテンツの検証と、次世代ガイド育成を目的とした実践の場『STAND OUT 宮城』の進捗状況と今後の課題について議論がなされた。